英語圏文学特論（古典）　　米村泰明

授業概要

キリスト教文化を根底に持つイングランドの文学には根強い「女性蔑視」の伝統があるとともに、マリア信仰に基づく「女性崇拝」の伝統も存在する。それぞれの潮流の発生から展開が、聖書や物語、演劇作品における男女関係の描写にどのように用いられているかを、作品を鑑賞しながら講義する。

授業計画

第１回	オリエンテーション　イングランド文学における女性蔑視と女性崇拝
第２回	旧約聖書からアダムとエバのエピソード
第３回	新約聖書と外典からマリアとヨセフのエピソード
第４回	中世サイクル劇に見る男と女　（1）アダムとエバ
第５回	中世サイクル劇に見る男と女　（2）ノアの女房
第６回	中世サイクル劇に見る男と女　（3）マリアとヨセフ
第７回	チョーサー『カンタベリー物語』　（1）バースの女房とグリゼルダ
第８回	チョーサー『カンタベリー物語』　（2）「粉屋の話」と「貿易商人の話」
第９回	マロリー　『アーサー王の死』　（1）解説と DVD 鑑賞
第10回	マロリー　『アーサー王の死』　（2）宮廷風恋愛
第11回	マロリー　『アーサー王の死』　（3）ランスロットとグイネヴィア
第12回	シェイクスピアの男と女　（1）ロミオとジュリエット
第13回	シェイクスピアの男と女　（2）ポーシャとバサーニオ
第14回	エリザベス女王の肖像画を読む
第15回	総括
第16回	筆記試験

到達目標

現代の欧米文化を形作ったキリスト教文化が生み出した男女のあり方を知り、現代にまで続く問題を考えるための基盤を作る。

履修上の注意

多くの文学作品を読むことになる。必ず授業前に音読し、意味のわからない言葉は調べておくこと。
授業中に音読してもらったり、発表してもらうことがある。

予習復習

事前に資料を配布するので、必ず読んでおくこと。授業中に音読させる。その際に読めない漢字、意味のわからない言葉がないように調べておくこと。これを行っていないと判断した時には、出席扱いとはしない。

評価方法

予習復習の程度、授業への参加度、随時課すレポート、筆記試験をもとに評価する。
学期末試験　70%　　受講態度 30%

テキスト

教材を配布するが、シェイクスピアの作品は翻訳が書店で入手できるので、購入して読むことが望ましい。